『水経注疏訳注　穀水篇』別冊

公益財団法人東洋文庫所蔵明版水経注三種

水経四十巻　後魏酈道元注　明呉琯校　万暦十三年（一五八五）序新安呉氏校刊後印本　八冊　XI-3-A-b-195

左右双辺縦二〇・二cm横一二・九cm、有界十行二十字、単魚尾白口、無点。巻首に万暦十三年王世懋「重刻水経序」、嘉靖十三年（一五三四）黄省曽「刻水経序」、「水経目録」があり、巻第一の巻頭は「水経第一／漢桑欽撰／後魏酈道元注／明呉琯校」に作る。版心題は「水経」、版心下部にまま刻字数を記す。無刊記。

明の万暦年間（一五七三～一六二〇）当時、『水経注』には宋版を校勘した嘉靖十三年黄省曽刊本が流通していたが、精緻さの面で問題があった。そこで叢書『古今逸史』の刊行で知られる呉琯（字仲虚、福建漳浦の人、隆慶五年（一五七一）進士）が校訂して刊行したのが本書である。巻三以降は呉琯ではなく、「呉中珩校」に作る（呉中珩、字延美、歙県の人。呉勉学（号師古斎）の子）。『水経』の経文に対し、酈道元の注を一字下げで配し、一字乃至二字の墨丁（未刻部分）が散見する。継ぎ接ぎをした料紙に印刷された丁、および版面を横断するクラックや匡郭の破損が確認できることから、安価な料紙を用いた後刷り本と見られる。早稲田大学図書館所蔵本の内封に「文枢堂呉桂宇梓」とあるのによれば、金陵の書肆呉桂宇文枢堂の刊本である。国内では、他に宮内庁書陵部にも所蔵される。

ここに紹介した明版水経注三種は、いずれも徳島県出身の東洋史学者藤田豊八（一八六九～一九二九）旧蔵で、各冊巻頭に蔵書印「藤田鍼峰／臧書之記」が捺される。

「重刻水経序」第1丁表	巻第一第1丁表
「重刻水経序」第1丁裏	巻第十六穀水篇第1丁表

重刻水経序

蓋水經一書黄先生省曾序之詳矣其言閎肆麗爾大都侈其功用與兩家之宜傳云爾第校讐未精灾豕時混人非邢邵疇能取適新安太學吴君絶愛此書志存嘉惠延延江都陸君至白下假以歲月窮其後剔於是梓匠彈技觀者厭心書成陸君以屬世懋為之序曰物於天地間最鉅而最夥者莫如水其於經紀法界浸漑萬靈功至矣譬之人身津液精血流貫注伏皆是物也治身者不循其血脉意醫無所席手治水者不辨其條紀意匠無所施功詎可無傳述於世令荒度者受成乎子長號為良史書止河渠蠡測一勺耳後之作者

水經第一

漢 桑欽撰

後魏酈道元注

明 吴琯校

河水一

崑崙墟在西北

三成為崑崙丘崑崙說曰崑崙之山三級下曰樊桐一名板松二曰玄圃一名閬風上曰增城一名天庭是謂太帝之居

去嵩高五萬里地之中也

水經第十六

漢 桑欽撰

後魏酈道元注

明 吴琯校

穀水 甘水 漆水 滻水

沮水

穀水出弘農黽池縣南潘塚林穀陽谷

山海經曰傅山之西有林焉曰潘冢穀水出焉東流注于洛其中多珉玉今穀水出于崤東馬頭山穀陽谷東北流歷黽池川本中鄉地也漢景帝三

水経注箋四十巻　明朱謀㙔撰　万暦四十三年（一六一五）序西楚李長庚刊本　十冊　XI-3-A-b-194

左右双辺縦二一・六cm横一三・五cm、有界十行二十字、単魚尾白口、無点。巻首に嘉靖十三年黄省曽「水経序」、「水経注箋目録」があり、巻第一の巻頭は「水経注箋巻第一／漢桑欽撰　後魏酈道元注／明李長庚訂　孫汝澄／朱謀㙔箋　李克家仝校」に作る。版心題は「水経注箋」、版心下部にまま「豫章喩鎧写姜良刻」など写工名・刻工名および刻字数を記す。無刊記。

本書は、朱謀㙔（字鬱儀、寧献王七世孫、号枳園、著に『周易象通』八巻などがある）が呉琯刊本を底本に用いて、謝兆申（字保元、邵武の人、号耳伯）・孫汝澄・李克家（字嗣宗、新建の人）等と校勘して編纂したもので、『水経』の経文に対し、酈道元の注を一字下げで配し、朱謀㙔の箋を小字双行で割注する。本書の校訂に対する清朝考証学者の評価は高く、清代にはしばしばこれを底本に『水経注』の校訂が行われた。東洋文庫本には欠丁・錯丁などがまま見られ、同版の国立公文書館内閣文庫所蔵本では、黄省曽序の前に万暦四十三年李長庚「水経注箋序」、後ろに同年朱謀㙔「水経注箋序」・「水経注所引書目」を載せる。国内では、他に東京大学東洋文化研究所、京都大学人文科学研究所等にも所蔵される。

巻第十六穀水篇第1丁表

巻第十六穀水篇第1丁裏

漢　桑　欽撰　　後魏酈道元　注

明　李長庚訂　　孫汝澄

朱謀㙔箋　　李克家仝校

穀水　甘水　漆水　滻水

沮水

穀水出弘農黽池縣南墦塚林穀陽谷

山海經曰傅山之西有林焉曰墦冢穀水出焉東流注于洛其中多珉玉今山海經云其中多珉玉御覽引水經注作珉玉

今穀水出于嶠東馬頭山穀陽谷東北流歷黽池

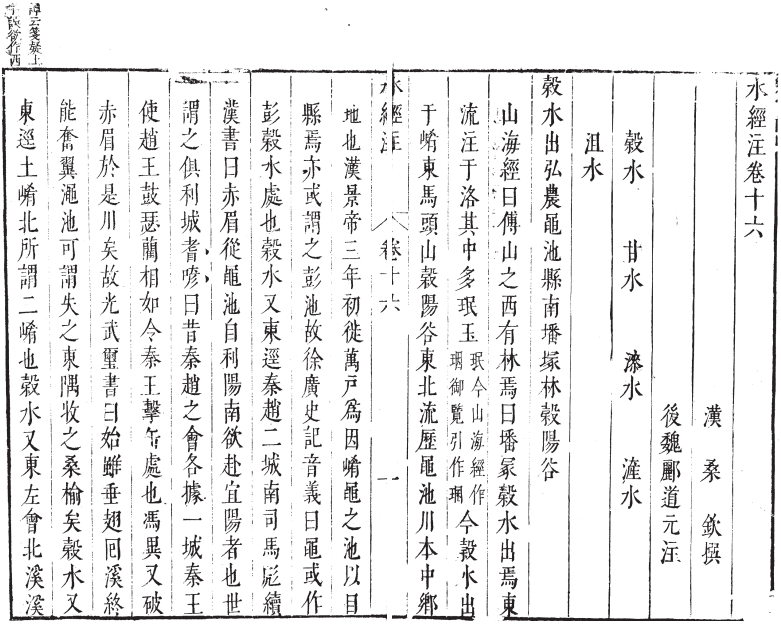
川本中鄉地也漢景帝三年初徙萬戶爲因嶠黽之池以目縣焉亦或謂之彭池故徐廣史記音義曰黽或作彭穀水處也穀水又東逕秦趙二城南司馬彪續漢書曰赤眉從黽池自利陽南欲赴宜陽者也世謂之俱利城者嗟曰昔秦趙之會各據一城秦王使趙王鼓瑟藺相如令秦王擊缶處也馮異又破赤眉於是川矣故光武璽書曰始雖垂翅回溪終能奮翼澠池可謂失之東隅收之桑榆矣穀水又東逕土嶠北孫云土嶠土字疑誤蓋有東西二嶠此或作西嶠也所謂二嶠也穀水又東左會北溪溪水北出黽池

水経注四十巻　後魏酈道元撰　明朱謀㙔箋　明朱之臣鍾惺等評　崇禎二年（一六二九）序景陵譚元春刊本　八冊　XI-3-A-b-193

単辺縦一九・九cm横一三・六cm、有界九行二十字、単白魚尾白口、句批点、頭注、傍注。巻首に崇禎二年譚元春「刻水経注批点叙」、「水経注箋評姓氏」、嘉靖十三年黄省曽「水経注序」、万暦四十三年李長庚「水経注序」、「水経注所引書目」、「水経注目録」があり、巻第一の巻頭は「水経注巻一／漢桑欽撰／後魏酈道元注」に作る。版心題は「水経注」。無刊記。清末の沈祖右（字徳侯）なる人物の蔵書印（「沈印／祖右」「徳／侯」（大小二種）、「祖／右」「徳／侯」）が捺される（『銭君匋蔵印譜』に呉昌碩作成の沈祖右の印が見られる）。

本書は、朱謀㙔『水経注箋』を底本にして、本文に句点・批点・傍注を加え、匡郭の上欄外に朱之臣（字無易、内江の人）・鍾惺（字伯敬、景陵の人、万暦三十八年（一六一〇）進士）・譚元春（字友夏、景陵の人、室名嶽帰堂）の評を刻して刊行したもの。李長庚刊本に比べ、朱謀㙔の箋に省略が見られる。上欄外の朱之臣等の評には別の版木を埋め込んで印刷されたものがあるらしく、印刷状態がよくないものが多い。国内では、他に国立国会図書館、京都大学人文科学研究所等にも所蔵される。

第4冊巻第十六穀水篇第1丁表　傍注・傍点（第2丁裏）
第4冊巻第十六穀水篇第1丁裏　匡郭上欄外の評（第15丁裏）



水經注卷十六

漢　桑　欽撰

後魏酈道元注

穀水　甘水　溱水　滻水

沮水

穀水出弘農黽池縣南潘塚林穀陽谷

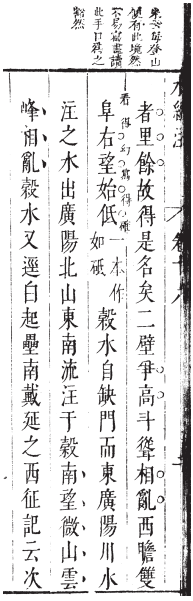
山海經曰傅山之西有林焉曰潘冢穀水出焉東流注于洛其中多珉玉（珉今山海經作碧珉御覽引作碧）

于崤東馬頭山穀陽谷東北流歷黽池川本中鄉

水經注　卷十六　一

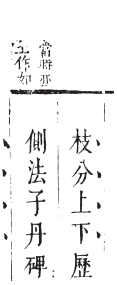
地也漢景帝三年初徙萬戶爲因崤黽之池以目縣焉亦或謂之彭池故徐廣史記音義曰黽或作彭穀水處也穀水又東逕秦趙二城南司馬彪續漢書曰赤眉從黽池自利陽南欲赴宜陽者也世謂之俱利城者㑹曰昔秦趙之會各據一城秦王使趙王鼓瑟藺相如令秦王擊缶處也馮異又破赤眉於是川矣故光武璽書曰始雖垂翅回溪終能奮翼澠池可謂失之東隅收之桑榆矣穀水又東逕土崤北所謂二崤也穀水又東左會北溪

卷第十六第1丁



者里餘故得是名矣二壁爭高斗聳相亂西瞻雙阜右垂始低（看得幻出得一本作如碑）穀水自缺門而東廣陽川水注之水出廣陽北山東南流注于穀南垂微山雲峰相亂穀水又逕白起壘南戴延之西征記云次

傍注・傍点
（同上第2丁裏）



枝分上下歷
側法子丹碑
方古猶劣渠

匡郭上欄外の評
（同上第15丁裏、上半欠損）

主な参考文献

瞿冕良『中国古籍版刻辞典』（斉魯書社、一九九九年二月）

楊廷福・楊同甫『明人室名別称字号索引』（上海古籍出版社、二〇〇二年十二月）

山元貴尚「『水経』、『水経注』、『水経注疏』について」（『水経注疏訳注（渭水篇 上）』（東洋文庫、二〇〇八年三月）所収）

（東洋文庫研究部主幹研究員　會谷佳光）